

株主・投資家の皆様へ

第72期中間報告書

平成20年4月1日から平成20年9月30日まで

Quality products,
Competitive prices, and
Timely delivery



株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申しあげます。
第72期 中間期の業績について、ご報告させていただきます。



代表取締役会長

代表取締役社長

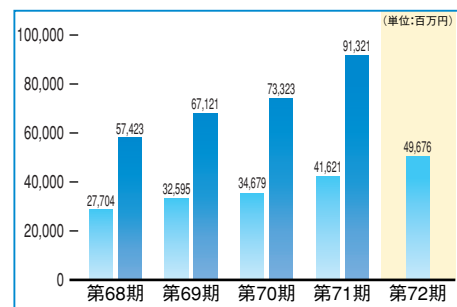
若山 恭二 増谷 修

■第2四半期 決算ハイライト

増収増益を確保、

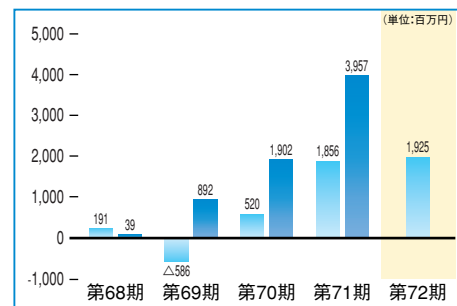
売上高 496億円

前年同期比 19.4%増加



純利益 19億円

前年同期比 3.7%増加



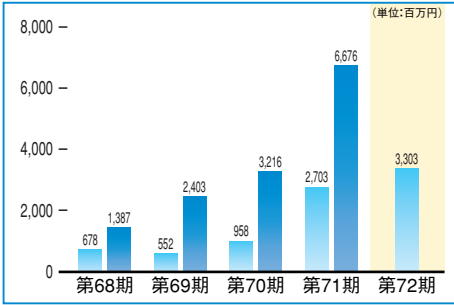
■ 第2四半期 ■ 通期

経営理念

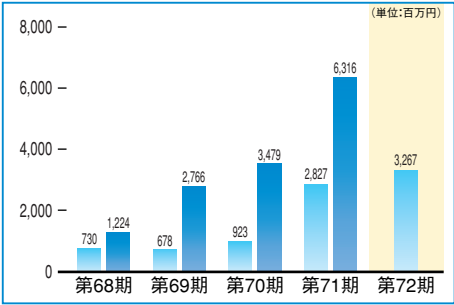
想像力を豊かにし、
これをより安く、

財務体質の改善が進んでいます

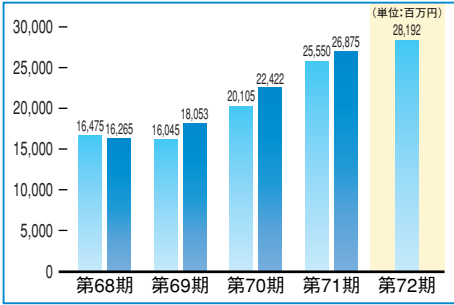
営業利益 33億円
前年同期比 22.2%増加



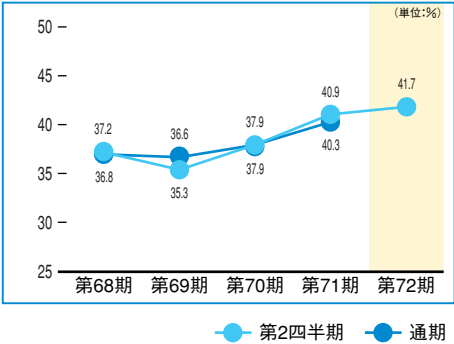
経常利益 32億円
前年同期比 15.6%増加



純資産 281億円
前期末比 4.9%増加



自己資本比率 41.7%
前期末比 1.4ポイント増加



Contents

- 株主の皆様へ 1
- 第2四半期決算ハイライト 1
- トップインタビュー 3
- 事業別営業の概況 6
- 決算の状況（連結） 7
- 会社の概況 9
- 株式情報 9
- トピックス 10

これまでに存在しない全く新しい製品・サービスを創造し、
より速く、世の中に提供することで、人々の豊かな暮らしに貢献いたします。



特集企画「IMASENを知る」第1弾

トップインタビュー

社長 増谷 修に聞く「IMASENの現在と将来」

Profile

代表取締役社長
増谷 修

Osamu Masuya

1944年、東京都生まれの64歳。中央大学卒業後、株式会社今仙電機製作所に入社。自ら希望して生産技術部門に配属となり、以来一貫して「モノづくり」を支える部門に従事。八百津工場など国内工場の立ち上げを担当。2001年に取締役役に就任以降も、海外拠点の立ち上げなど、グローバル生産体制の構築に尽力。2007年6月に代表取締役社長に就任。



2005年度より取り組んでいる中長期事業計画
「Proud73」の進捗状況はいかがですか？

■経営目標は前倒しで達成も、満足はしていない

Proud73 では2009年度に「連結売上高900億円」「経常利益率7%」という目標を設定して取り組んできました。これをスタートした2005年度においては私自身、達成はかなり高いハードルであろうと考えていましたが、前期（2007年度）において2年前倒しで、ほぼこの目標を達成することができました。これは従業員が一丸となって、それぞれの持ち場で積み上げてきた努力の凝縮された結果であると考えています。

ただし、あまり満足はしていません。もちろん社内努力を評価していますが、日本の自動車メーカーが世界で好調に販売、生産を伸ばしてきたこと、シートメーカーをはじめとしたしっかりとしたお客様に支えられたことに加え、円安などといった外部の追い風要因によるところが大きかったことも事実です。これらが逆風に転じた今期以降が本当の意味での正念場であろうと考えています。

また、**Proud73** では**IMASEN**の目指す事業ビジョンとして、①シートアジャスタで世界トップレベルの企業になる、②電子ユニットを第2の主力製品として確立する、③既存事業にとらわれない新事業を発掘する、という3項目を掲げて取り組んでいます。これらについてもまだまだ道半ばであると考えています。

①のシートアジャスタについては、製品面において圧倒的な競争力を身につけていくことが課題であると考えています。

②の電子ユニットについては、ある程度までは育成できたと考えていますが、やや頭打ちの感がありますので、開発力の強化へてこ入れとして「広島テクニカルセンター」を設置することとしました。（10ページジブニクスをご参照下さい。）

③の新事業については、職制だけでなく、部門の枠組みを超

えたチームを編成してアイデア創出を目指しています。

更なる成長を目指し、新しい経営目標値を設定しなければなりません。これらの事業ビジョンも継続してチャレンジしていかなければならない課題であると考えています。



世界経済が急速に冷え込みを見せていますが、
今後の**IMASEN**に与える影響は？

■影響は避けられない、無駄を省く努力を地道に続けていく

今期の中間期までは順調に推移してまいりましたが、今後の自動車業界を取り巻く環境はここ最近に於いて非常に厳しいものになることは間違いありません。

IMASENにおきましてもその影響は避けられません。世界的な自動車販売の不振による自動車メーカー減産の影響が既に現れ始めており、今後は国内、海外ともに従来の想定に対し、売上の減少が見込まれます。ただし今期にしましては、もとより大きな受注増加を見込んでいたこともあり、前期比で増収は確保できるものと考えております。将来的にもこうした影響を最小限に留めるべく、引き続き拡販活動に努めていく方針です。

一方、売上の減少は当然利益の減少につながりますので、これまでと同じようなことをしていたのでは、計画の利益水準を達成することはできません。では「何をするか？」ですが、ある著名な経営者の言葉を借りれば、「奇策、手品などはない、一人ひとりの日々の努力を地道にやっていくこと」であろうと考えています。

IMASENでは、ここ数年の急激な量の拡大に対応するため、惰性を許してきた部分が少なくないものと思います。これを振り返る良い機会と捉え、徹底的に無駄を省いていく努力を積み上げ、今後も企業として成長を続けていくために必要な利益を確保していきたいと考えています。

ただし、将来に向けて今やるべきことをやらないで、費用を

抑えるようなことはしたくありません。体質を強くするためにやることはやる。ただし無駄があってははいけません。従来10でやっていたものを5でやれるよう知恵を絞っていきます。

全従業員でこれらを地道に続けていけば、1年後あるいは3年後には、必ずや成果が実ってくるものと思います。

Q 国内新拠点「岐阜工場」「株九州イマセン」の立ち上がり状況をどう評価していますか？

■更なる改善を進め、新拠点を強化していく

昨年6月に稼働を開始した2つの新しい生産拠点につきましては、概ね良好なスタートを切ったものと評価しています。

岐阜工場は、新製品の立ち上げ、既存製品の生産移管を進め、順次生産量を増加させてまいりました。同期生産ラインの導入による効率化を狙っていますが、現状では概ね目標の90%くらいの達成状況であると評価しています。立ち上げに伴う若干の混乱からは脱して安定しましたが、掲げた生産性改善目標には届いていませんので、一刻も早い時期に目標を超えられるよう、改善を進めてまいります。

(株)九州イマセンにつきましては、日産自動車(株)様向けのマニュアルシートアジャスタの生産を担当しており、予定された生産品目の立ち上げがほぼ完了しています。こちらは当初の目標を早期に達成することができ、現在は計画を上回っています。非常に良い工場になっていますが、残念なことに生産量が減ってきていますので、名古屋工場、岡山工場などの他の工場から、生産を移管することで、量を確保していくための検討に入っています。

なお、これら新工場への生産移管によって生まれた空きスペースを活用して、既存工場の生産性改善などについても展開しています。

製造現場では、やればすぐに結果が出てきますので、大変でもありますが、おもしろさもあります。当社は製造会社であり、モノづくりの結果が会社の成績に直結しますので、現場力の強化を進めていきたいと考えています。

Q 海外拠点の状況は？ 今後の海外展開は？

■受注が見込めるところには積極的に進出する

既存の拠点に関しては、中国、タイにおいて一層の受注増加

が見込まれることから、順次生産能力の強化を進めるほか、それぞれ塗装設備を導入するなど、現地調達率、内製率を高めていく方針です。また、特に中国に関しては、現状の広州1拠点体制でよいかどうかを含めて生産体制の整備を検討していきたいと考えています。

昨年から準備を進めているインドに関しては、現在、工場を建設中で、進出後の販路拡大を目指した受注活動を行っているところです。

海外進出に関しては、「ある程度の受注が見込めるところには積極的に進出していく」という従来の基本的なスタンスに変わりありません。ただし、今後は1社だけのお客様からの受注では環境変化への対応が困難になることも予想されるので、2社以上の受注獲得をターゲットにして、進出を検討していきたいと思っています。

いずれにせよ、国内市場の回復は直ちには見込めない状況でありますので、比較的成長が期待できる海外市場の動向を見極めつつ、次のステップを目指してまいります。

Q 厳しい経営環境において IMASENが今後も勝ち残っていくための課題は？

■人材育成、教育体系の見直しが課題

「企業を作るのは人である」ということをつくづく実感しており、役員を含め全従業員がいろいろな面でレベルアップを図っていかねばならないと考えています。すなわち人材の育成、教育体系の見直しが課題であると考えています。

特に最近では、業容の拡大によって積極的な人材採用を行ってきたことから、新しい従業員が増えています。こうした新しい仲間をどのように育てていくかを真剣に考えないといけません。



今回のインタビュアー

営業企画課 多儀 英治
(1996年入社)

人事教育課 三輪 珠代
(2006年入社)

アジア、特に中国のスタッフを見ていると、自身のスキルアップに対する熱心さ、どん欲さに驚かされます。このような姿を見ると、日本の企業もすぐに追い抜かれるのではという危機感を覚えます。**IMASEN**でも従業員の底上げを図るとともに、繋いでいくべき技術、ノウハウの確実な伝承を図ることができ体制作りを進めていかなければなりません。



株価が低迷していますが、株主・投資家に対する取り組みとしては？

■株価は実体に対し低評価、業績の維持向上に努める

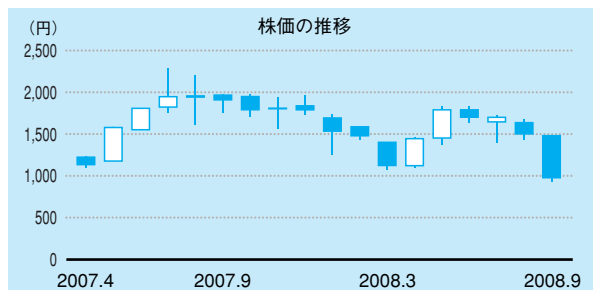
株価にはさまざまな要因が影響しており、特に現在は最悪の市場環境下にあるものと思いますが、PER、PBRからみても現在の**IMASEN**の株価は、業績、実体に対し、異常に低い評価であると考えています。

認知度不足もあるものと思いますので、株主・投資家の皆様からより正しい評価をいただけるようIR活動を積極的に行い、**IMASEN**の現在と将来の姿をお伝えしていきたいと考えています。

株主還元策としては、ここ数年、増配を継続してまいりました。十分な水準とは考えていませんが、引き続き設備投資が高い水準となる見通しであり、旺盛な資金需要とのバランスを考えたものです。今後も安定配当を意識しつつ、徐々に水準を高めていきたいと考えています。

昨年、転換社債の発行により資金調達を実施していますが、その後の株式市場の急激な冷え込みによる現在の株価水準を考えると、資本政策も柔軟に検討していかなければならないと考えています。

混乱した市場環境が安定してくれば、ある程度は株価も回復するものと思いますので、それまでの間に業績を落とすことのないよう、利益体質の維持、向上に努めてまいります。



来年で70周年を迎えますが、その先更なる5年、10年に向けた意気込みは？

■誰もが誇れる**IMASEN**を築き上げる

70周年は非常に厳しい経営環境のもとでスタートすることになりそうです。特に自動車業界におきましてはパワートレインの革新に代表されるように、今後の5年、10年は非常に大きな変化の時代になるものと思われます。

しかしながら、こうした環境におきましても、低燃費、環境技術に優位性のある日系自動車メーカーはその存在価値を一層高めていくものと思われますので、**IMASEN**ではこれを新たなビジネスチャンスの到来と捉え、積極的に臨んでいきたいと考えています。

こうした環境の変化に対応すべく、現在、来期をスタートとする新しい中長期計画の策定を進めています。そのメインテーマを「経営基盤の再構築」と位置づけ、新たな中長期計画のもと、誰もが誇れる**IMASEN**を築き上げ、ひとつ上の活躍ステージを目指してまいります。

■詳しくはwebで

今回のインタビューの内容は、**IMASEN**のホームページにより詳しく掲載されております。あわせてご覧下さい。

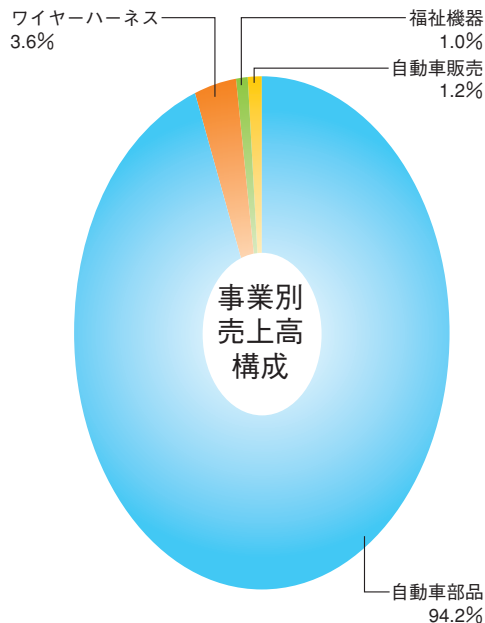
<http://www.imasen.co.jp/>

■次回予告

特集「**IMASEN**を知る」は、次回第2弾を第72期末のご報告におきまして掲載を予定しております。お楽しみにお待ちしております。

■事業別営業の概況

主力の自動車部品関連事業が好調に推移いたしました



自動車部品関連事業

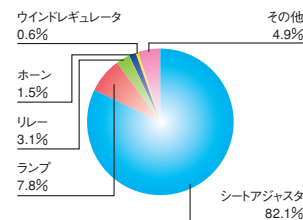
売上高 46,803百万円
(前年同期比 20.4%増)
営業利益 3,112百万円
(前年同期比 25.2%増)



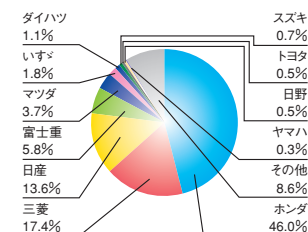
パワーシートアジャスタ

国内において前期の後半に立ち上がった製品が寄与したこと、アジア地域における子会社が順調に推移したことから、増収増益となりました。

■製品別売上高構成



■販売先系列別売上高構成



ワイヤーハーネス関連事業

売上高 1,778百万円
(前年同期比 6.5%増)
営業利益 157百万円
(前年同期比 21.8%減)

工作機械業界向けの売上が引き続き好調に推移したことから、増収となりましたが製品構成の変化などにより、減益となりました。

福祉機器関連事業

売上高 498百万円
(前年同期比 11.5%増)
営業利益 44百万円
(前年同期比 133.5%増)

受注拡大を目指し、高付加価値製品の開発を行うとともに総原価低減に努めてまいりました結果、増収増益となりました。

自動車販売関連事業

売上高 595百万円
(前年同期比 4.5%減)
営業損益 △20百万円
(前年同期比 ー)

国内自動車販売の低迷が続くなかで、景気の減速感が受注の減少につながり、減収、損失計上となりました。

決算の状況（連結）

四半期連結貸借対照表

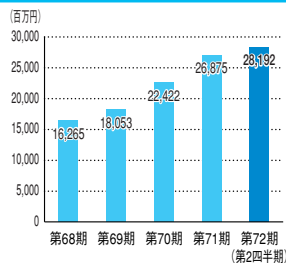
（単位：百万円）

年度別	前中間	当第2四半期	前連結
科目	連結会計期間末 (平成19年9月30日)	連結会計期間末 (平成20年9月30日)	会計年度末 (平成20年3月31日)
(資産の部)			
流動資産	31,657	36,380	36,152
現金及び預金	2,867	3,491	4,679
受取手形及び売掛金	20,776	23,703	23,144
たな卸資産	5,409	6,180	5,473
その他	2,606	3,009	2,860
貸倒引当金	△2	△4	△4
固定資産	28,534	29,003	28,214
有形固定資産	24,388	25,230	24,859
建物及び構築物（純額）	8,551	7,874	8,221
機械装置及び運搬具（純額）	7,588	8,476	8,365
その他（純額）	8,249	8,879	8,272
無形固定資産	200	308	186
その他	200	308	186
投資その他の資産	3,945	3,464	3,168
投資有価証券	3,581	3,065	2,767
その他	417	434	438
貸倒引当金	△52	△35	△36
資産合計	60,192	65,384	64,367

年度別	前中間	当第2四半期	前連結
科目	連結会計期間末 (平成19年9月30日)	連結会計期間末 (平成20年9月30日)	会計年度末 (平成20年3月31日)
(負債の部)			
流動負債	26,793	27,550	28,432
支払手形及び買掛金	12,912	16,080	15,558
1年内償還予定の社債	—	500	500
短期借入金	4,313	3,736	4,994
未払法人税等	806	1,149	1,432
賞与引当金	1,091	1,165	1,137
その他	7,668	4,917	4,808
固定負債	7,849	9,641	9,059
社債	1,411	3,805	3,848
長期借入金	2,241	1,255	1,679
退職給付引当金	1,968	1,844	1,937
その他	2,228	2,736	1,594
負債合計	34,642	37,192	37,491
(純資産の部)			
株主資本	22,678	26,514	24,682
資本金	4,342	4,395	4,374
資本剰余金	4,075	4,128	4,107
利益剰余金	14,264	17,995	16,205
自己株式	△5	△5	△5
評価・換算差額等	1,951	728	1,255
その他有価証券評価差額金	1,426	932	941
為替換算調整勘定	525	△204	313
少数株主持分	919	949	938
純資産合計	25,550	28,192	26,875
負債純資産合計	60,192	65,384	64,367

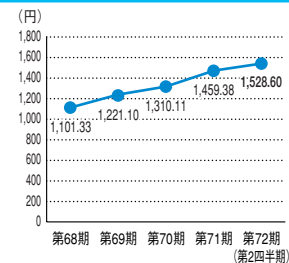
POINT① 純資産

為替相場が円高傾向で推移したことから、為替換算調整勘定の減少（518百万円）がありました。収益改善による利益剰余金の増加により、純資産は28,192百万円（前期末比1,316百万円の増加）となりました。



POINT② 1株当たり純資産

転換社債の転換により、発行済株式数が増加しておりますが、1株当たり純資産の額は、概ね純資産の増加に沿って増加傾向にあり、当第2四半期末では1,528円60銭（前期末比69円22銭の増加）となりました。



決算の状況（連結）

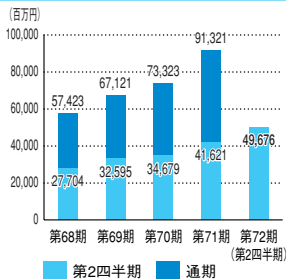
四半期連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	年度別 前中間 連結会計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	POINT③ 41,621	49,676	91,321
売上原価	35,209	42,301	76,665
売上総利益	6,411	7,375	14,656
販売費及び一般管理費	3,708	4,072	7,980
営業利益	POINT④ 2,703	3,303	6,676
営業外収益	259	136	306
営業外費用	135	171	666
経常利益	2,827	3,267	6,316
特別利益	3	55	3
特別損失	11	210	123
税金等調整前四半期（当期）純利益	2,819	3,113	6,196
法人税、住民税及び事業税	840	1,204	2,115
法人税等調整額	69	△65	10
少数株主利益	52	48	112
四半期（当期）純利益	1,856	1,925	3,957

POINT③ 売上高

主力の自動車部品関連事業において、国内受注が前期後半に立ち上がった製品の寄与により増加したことに加え、アジア地域における受注が引き続き好調に推移したことなどから、売上高は49,676百万円（前年同期比8,054百万円の増加）となりました。



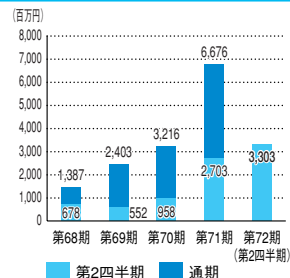
四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目	年度別 前中間 連結会計期間 (平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで)	当第2四半期 連結累計期間 (平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで)	前連結 会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,705	3,653	7,840
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,846	△2,466	△8,038
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,580	△2,001	1,303
現金及び現金同等物に係る換算差額	65	△106	0
現金及び現金同等物の増加額・減少（△）額	△655	△921	1,106
現金及び現金同等物の期首残高	3,111	4,217	3,111
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	2,455	3,295	4,217

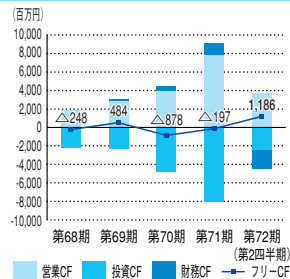
POINT④ 営業利益

鋼材をはじめとした原材料値上げの影響、円高の進行、減価償却費の負担増などといった収益悪化要因がありましたが、国内外における増収効果に加え、原価低減に努めた結果、営業利益は前年同期を599百万円上回る3,303百万円となりました。



POINT⑤ フリーキャッシュ・フロー

引き続き業績が安定して推移した一方で、前期までに大型の設備投資が一巡したことから、投資活動によるキャッシュ・フローが減少し、フリーキャッシュ・フローは1,186百万円となりました。なお、財務活動によるキャッシュ・フローは借入金の返済に充てたものであります。



■ 会社の概況 (平成20年9月30日現在)

◆ 会社の概要

社 名	株式会社 今仙電機製作所 Imasen Electric Industrial Co.,Ltd.
設 立	昭和14年2月1日
資 本 金	4,395百万円
主な事業内容	自動車用機構製品及び電装製品の製造・販売
従 業 員 数	4,030名 (連結)
本社所在地	愛知県犬山市字柿畑1番地
営 業 所	東京支店／広島支店／栃木支店／水島連絡所
工 場	名古屋工場／岐阜工場／八百津工場 岡山工場／春里工場／可児工場／広島工場
海 外 拠 点	台湾／フィリピン／米国／ 中国／タイ／インド

◆ 役員

代表取締役会長	若山 恭二	取 締 役	坪内 明
代表取締役社長	増谷 修	取 締 役	山田 博
専務取締役	上西 正司	常 勤 監 査 役	河村 則行
専務取締役	梅田 敏雄	常 勤 監 査 役	大澤 慶文
常務取締役	田野 信行	監 査 役	尾関 誠治
常務取締役	宇根 敏昭	監 査 役	宮澤 俊夫
常務取締役	鵜飼 菊雄		
取 締 役	植松 俊夫		
取 締 役	渡邊 和彦		
取 締 役	丹羽 和秋		
取 締 役	中島 良紀		

■ 株式情報 (平成20年9月30日現在)

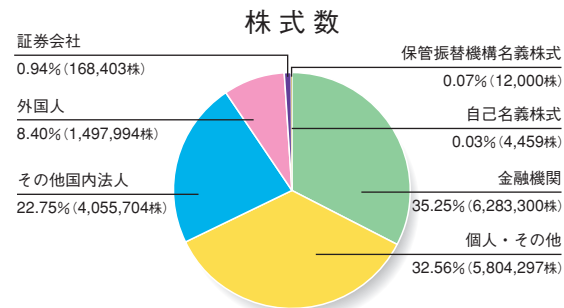
◆ 株式の状況

発行可能株式総数49,195,000株
 発行済株式の総数17,826,157株
 株主数4,193名

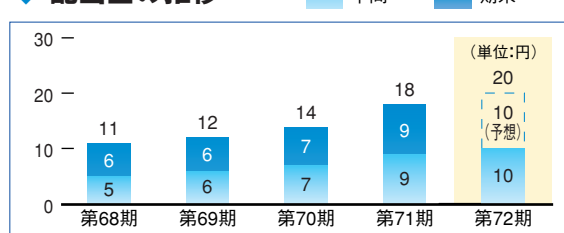
◆ 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	所有株数 (株)	比率 (%)
本 田 技 研 工 業 (株)	1,066,250	5.98
日本マスタートラスト信託銀行㈱ (信託口)	931,500	5.22
I M A S E N取引先持株会	679,400	3.81
ヤマハ発動機 (株)	613,750	3.44
(株)三菱東京UFJ銀行	605,000	3.39
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱ (信託口)	575,200	3.22
今仙電機従業員持株会	525,516	2.94
(株) 第 三 銀 行	505,000	2.83
東京海上日動火災保険(株)	505,000	2.83
日本トラスティ・サービス信託銀行㈱ (中央三井)	468,000	2.62

◆ 所有者別分布状況



◆ 配当金の推移



■トピックス

「広島テクニカルセンター」の新設

広島工場内に「広島テクニカルセンター」を新設し、本年10月より運用を開始いたしました。

これは第2の主力製品として確立を目指している電子ユニットの開発体制の強化を目的としたものであり、従来は工場と分離していた開発、営業部門（広島支店）をここに移管し、より生産現場と品質に配慮した開発体制を構築しようというものであります。

今後は、順次開発人員の強化を図ってまいります。



＜概要＞

- | | |
|-------|-----------------------------|
| ・事業費 | 約1億円 |
| ・延床面積 | 約800㎡ |
| ・所在地 | 広島県東広島市八本松飯田2-14-1（当社広島工場内） |

「日経IRフェア2008」に初出展

8月22～23日の2日間、東京ビッグサイトで開催された「日経IRフェア2008」に出展いたしました。日本経済新聞社主催によるこのイベントは、上場企業と、個人投資家との直接のコミュニケーションを図る場として行われたもので、今年は上場企業約100社が出展し、約1万5千人の来場者がありました。当社は首都圏における個人投資家に対する認知度を上げ、会社の状況を正しく理解していただくために初出展いたしました。

このイベント期間中、当社ブースに来場する多くの個人投資家の皆様に対し、事業内容、業績や将来性などを説明するとともに、熱心な皆様のご意見を聞くことができました。

今後も、積極的なIR活動を通じて、株主・投資家の皆様への適時適切な情報提供やコミュニケーションの充実に努めてまいります。



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 基準日 定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日
- 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
- 同事務取扱所 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(郵便物送付先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
- 同取次窓口 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- 単元株式数 100株
- 証券コード 7266 (東京・名古屋証券取引所市場第一部)

当社ホームページ紹介

当社及びグループ会社の概要、財務・製品・採用・決算等の最新情報につきましては、ホームページにてご案内しております。ぜひ、下記アドレスまでアクセスしていただきますようご案内申し上げます。

URL <http://www.imasen.co.jp/>

株券電子化実施後の手続のお申出先について

平成21年1月5日から、上場会社の株券電子化が実施される予定です。これに伴い、以下のとおり手続のお申出先が変更となります。

1. 株券電子化後の未払配当金の支払のお申出先
これまでどおり株主名簿管理人にお申出ください。
2. 株券電子化後の住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先
①ほふりに株券を預けられている株主様：お取引証券会社等
②ほふりに株券を預けられていない株主様：特別口座管理機関である中央三井信託銀行
お問い合わせ先は、左記株主名簿管理人と同じです。

株券電子化実施前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて

ほふりに株券を預けられていない株主様に関しまして、以下の期間お取扱いを変更させていただきます。

単元未満株式の買取請求につきましては、平成20年12月25日から平成21年1月4日までに受付したものの買取代金の支払は平成21年1月26日とさせていただきます。また、平成21年1月5日から平成21年1月25日までの間、単元未満株式の買取請求の受付を停止します。

なお、ほふりに株券を預けられている株主様に関しまして、株券電子化直前に単元未満株式の買取請求の取次停止期間が設けられますが、詳細はお取引証券会社等にご確認ください。

株主の皆様のお声をお聞かせください

当社では、株主の皆様のお声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。

お手数ではございますが、

アンケートへのご協力をお願い申し上げます。

- アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツーメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>)
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30) MAIL:info@e-kabunushi.com

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 7266

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、
いいかぶと4文字入れて検索してください。



空メールにより
URL自動返信 kabu@wjw.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からも
アクセスできます QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、
右のQRコードからもアクセスできます。

